

大津版災害時ファーストコンタクト

～出火と余震による被害を防ぎ、助けられる命は今助ける～

大津市消防局

◎ 大津版災害時ファーストコンタクトとは

従来からは「消火」「救助」「救急」とそれぞれ単独で実施されてきた訓練でしたが、大地震など実災害が発生したことを想定し、二次的な被害の防止などに注意しながら一連で対処する訓練としました。

強い余震の発生が予想される中、地震によりダメージを受けた建物から住民を救出するためには…

この訓練には、新たな知識の習得は勿論のことですが、個人の技術とチームとしての連携が必要となり、繰り返し訓練を行っていただくことで自主防災活動の活性化を図ることを目的としています。

◎ 例えば、このような内容です《その3》… 危険排除

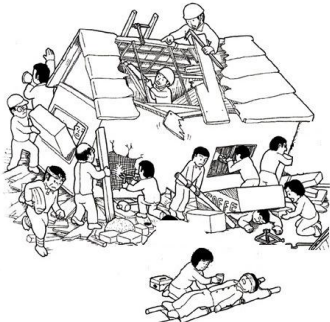
災害発生後、第一優先の行動は出火防止！

その他にも災害現場で活動するためには、余震により転倒・倒壊してくるような柱や瓦礫、地面には割れたガラスなど危険なものがたくさんあります。

災害現場で活動するためには、これら危険要因の排除が欠かせません。

ゾーニングという特に安全管理の意識が必要な範囲を認識し、二次災害が発生しない活動を行います。

◎ 例えば、このような内容です《その1》… 安全管理



倒壊家屋で住民が活動しているこの絵を見て、危ないと感じませんか？

◎ 活動にふさわしい服装でしょうか？

◎ 真上や真横で違う活動が同時に進行し、各々が活動に集中しています。危険を察知する術は？

ファーストコンタクトでは、常に安全管理の目線を持ち、災害による被害を最小限に止めることを活動の大きな目的にしています。

◎ 例えば、このような内容です《その4》… 搜索活動

平成16年（2004年）に発生した新潟県中越地震では、崩落土砂に埋もれた車から当時2歳の男児が事故発生92時間後に無事救出されました。

この際、救助隊員の会話や上空飛来したヘリコプターの音などをすべて排除【**サイレントタイム（完全な静かな状態）**を作る】して、体力の弱っていた男児の出す僅かな音を頼りに活動出来たことで、奇跡の救出につながりました。

ファーストコンタクトでは、このサイレントタイムの要領など、搜索活動のポイントも訓練でお伝えします。

◎ 例えば、このような内容です《その2》… 服装

安全管理の基本は服装！

普段からしていないことは、災害時に出来るものではありません。

訓練時から活動に相應しい服装を着用します。

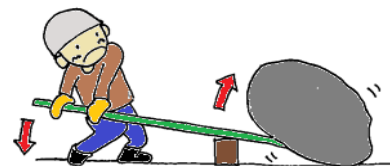
- ヘルメットの着用
- 長袖シャツ、長ズボン
- 手袋の着用
- 長靴等（できれば踏抜き処置がされているもの）



◎ 例えば、このような内容です《その5》… 救出活動

絵のように、金てこ（長尺バール）1本あれば重量物を持ち上げ、下敷きになった人（負傷者）を救出することは可能です。

しかし、**金てこの持ち方や姿勢、更には上げた重量物の固定方法**など、訓練を通じて知識と技術を学んでいただく必要があります。



また、一度だけではなく、繰り返し訓練をしていただくことが重要となります。

※ 裏面も見てください！

【「大津版災害時ファーストコンタクト」ネーミングと込めた願い】

- この訓練は、本市オリジナル訓練です。ですから『大津版』としました。
- 次に「ファーストコンタクト(First contact)」ですが、意味は“最初の接触”“最初に会って情報を交換する”等です。
- この「ファーストコンタクト」の前に「災害時」をつけることで、“災害時に最初に接触し、情報交換をしたり、助け合う・助ける”つまり、地域住民が互いに声を掛け合い、次に負傷者や高齢者等に救いの手を差し伸べていただくイメージをしました。
- ◎ この訓練を通じて、**地域の人々が最初の接触・情報交換・助け合いを始めていただく切っ掛け**としていただき、**被災者へ最初の救いの手を差し伸べる地域の力**をお持ちいただきたいと思います。
- ◎ そして、訓練を通じて感じていただく会話や連携、助け合いの大切さを確認していただき、**地域における共助体制の確立**につなげていただくことを願っています。

【ファーストコンタクトを地域に広める方法について】

- ① 大津市消防団地域防災指導員と大津市防災士の方には、消防職員がフォローアップ研修でお伝えします。
- ② 地域の自主防災会等が訓練を希望される場合は、下記の消防署にご相談下さい。
- ③ 自主防災会等の訓練当日は、①で研修を受けていただいた方と消防職員と一緒にファーストコンタクトをお伝えします。

【既に備えていただいている資器材の活用について】

市の補助制度を使っていただくなどして、市内の各地域には様々な防火・防災資器材を置いていただいています。

では、その資器材の正しい使い方はご存知でしょうか？ また、これらを使った訓練を実施していただいていますか？

人は、危機(災害)に瀕すると、「普段やっていることしか出来ない」「普段やっていることも満足に出来ない」「普段やっていないことは絶対に出来ない」と言われています。

災害現場は、間違いなく危険な場所です。資器材を備えたことに気を緩めることなく、これを機に、備えていただいた資器材を使った訓練をしてみませんか。

何なりと消防署にご相談下さい。

【You Tubeチャンネルでの動画について】

今般、「大津版災害時ファーストコンタクト」の概要動画(9分15秒)を You Tubeチャンネルに掲載しました。

「大津市」「消防局」「ファーストコンタクト」「訓練」「自主防災」「自主防災会」「防災訓練」などの検索ワードで検索してみてください。

※ インターネット接続等に関する費用が掛ります。各自でご負担ください。

問合せ先

大津市北消防署 (572-0119)

大津市中消防署 (525-0119)

大津市南消防署 (533-0119)

大津市東消防署 (543-0119)

大津市北消防署 志賀分署 (592-0119)

大津市中消防署 西分署 (579-0119)

大津市南消防署 南郷出張所 (537-0119)